

国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区

体験的歴史学習基本構想

平成22年9月

国土交通省 近畿地方整備局

国営飛鳥歴史公園事務所

目次

第1章 キトラ古墳周辺地区の位置づけと整備基本方針	1
第1節 キトラ古墳周辺地区の位置づけ	1
(1) 国営飛鳥歴史公園の概要	1
(2) キトラ古墳周辺地区の位置づけ	4
第2節 キトラ古墳周辺地区整備の基本方針	5
(1) 整備の背景と目的	5
(2) 整備の基本方針	6
(3) キトラ古墳周辺地区に係る経緯	9
第2章 体験的歴史学習の基本理念	10
第1節 体験的歴史学習とは	10
(1) 体験的歴史学習とは	10
(2) 背景・条件	10
(3) 体験的歴史学習に求められる役割	12
第2節 体験的歴史学習の目的と展開方向	13
(1) 体験的歴史学習の目的	13
(2) 体験的歴史学習の展開方向	13
第3章 体験的歴史学習の展開方針	14
第1節 体験的歴史学習プログラムの展開	14
(1) 体験的歴史学習のテーマとコンセプト	14
(2) 体験的歴史学習プログラムの設定方針	16
(3) 体験的歴史学習の分野・手法	18
第2節 導入機能と機能配置	21
(1) 必要機能の整理	21
(2) 機能と各エリアの対応	22
第3節 導入施設	24
(1) 主要施設の設定	24
(2) 体験的歴史学習プログラムの展開イメージ	27
第4節 管理運営方針	31
(1) 管理運営に求められる要素	31
(2) 管理運営方針	32
(3) 基幹部分の管理運営の考え方	33
(4) 参画による管理運営の考え方	34
第4章 今後の展開に向けて	36

第1章 キトラ古墳周辺地区の位置づけと整備基本方針

第1節 キトラ古墳周辺地区の位置づけ

(1) 国営飛鳥歴史公園の概要

国営飛鳥歴史公園は、古代の政治と文化の中心として栄えた飛鳥地方において、豊かな自然と文化的資産の保存・活用を図る施策の一環として整備している。祝戸・石舞台・甘樫丘・高松塚周辺・キトラ古墳周辺地区の5地区（総面積 59.7ha）からなり、文化的資産の保存及び活用を図るための国営公園としては全国で初めてのものである。

国営飛鳥歴史公園は「日本人の心のふるさと」を基本テーマとし、飛鳥の歴史的風土を保存し活用していく上で必要な地域を拠点的に整備している。各地区の歴史的蓄積や地形・植生・立地条件等を考慮し、本物を産み育む飛鳥として周辺の歴史的風土と調和した景観となるよう整備を行っている。祝戸、石舞台、甘樫丘、高松塚周辺の4地区は概成開園しており、キトラ古墳周辺地区は開園に向けた整備を進めているところである。

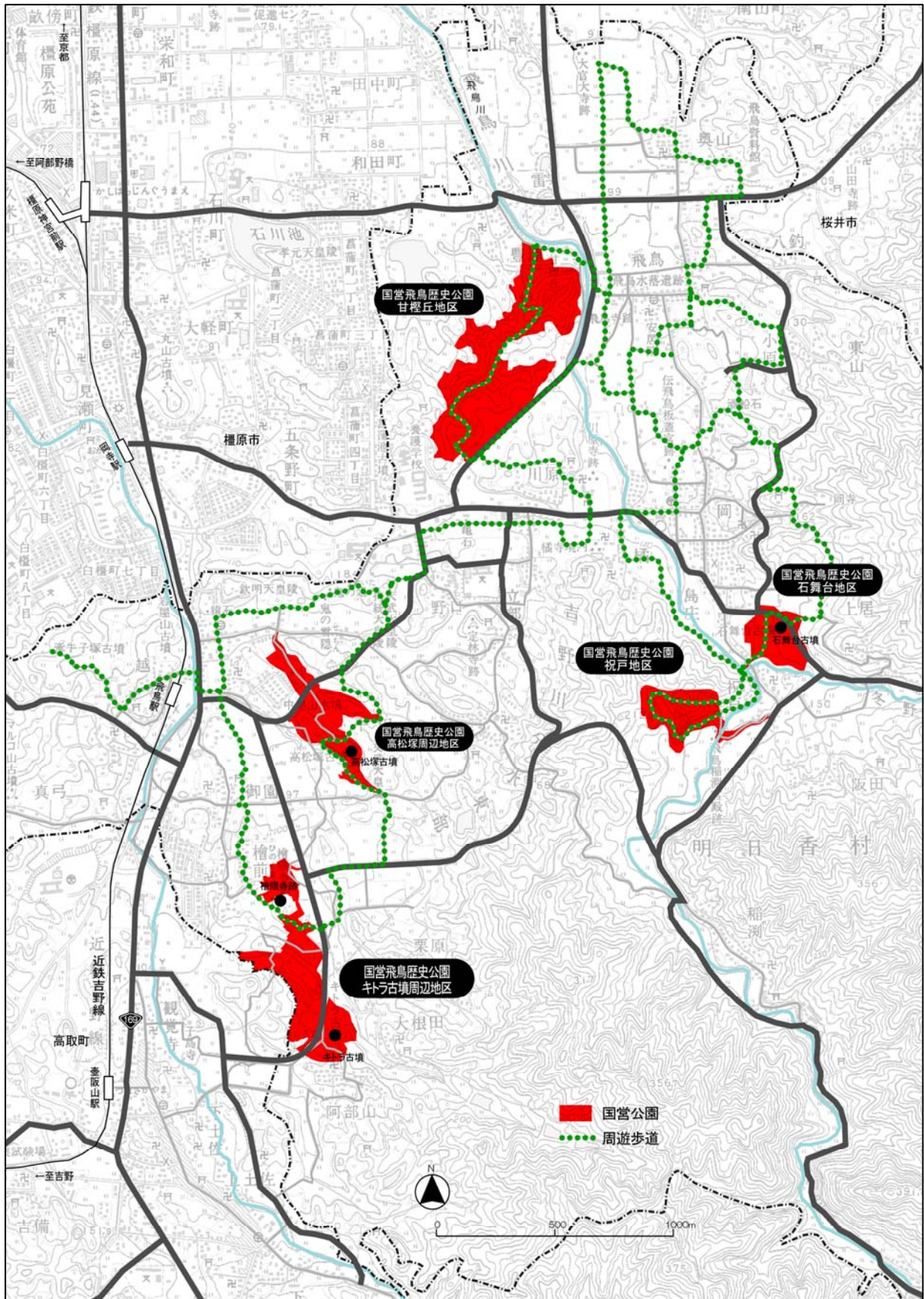
また、明日香村内に整備された総延長 18km の周遊歩道は村内の史跡を結ぶと同時に、国営飛鳥歴史公園の各地区とも一体となった利用が図られるように配慮されている。

各地区の主な機能

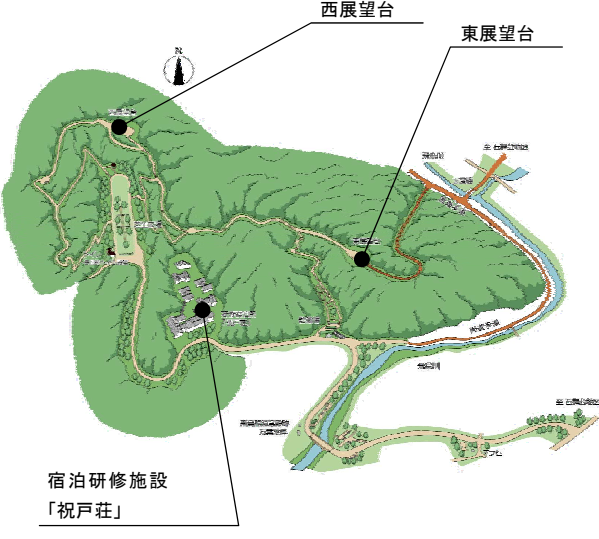

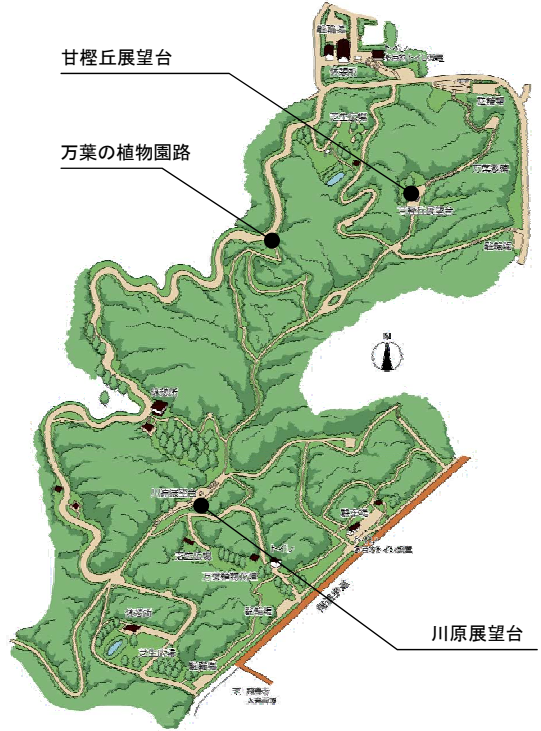

地区名	面積 (ha)	主な機能	供用開始
祝戸地区	7.4	展望・散策及び宿泊研修機能	S49.7※
石舞台地区	4.5	史跡鑑賞及び休養機能	S51.8
甘樫丘地区	25.1	展望及び散策機能	S55.4
高松塚周辺地区	9.1	史跡や模写壁画の鑑賞の利便と管理機能	S60.10
キトラ古墳周辺地区	13.6	史跡鑑賞及び体験的学習機能	整備中
総面積	59.7	—	—

※供用開始の告示は昭和 51 年 8 月

国営飛鳥歴史公園 位置図



国営飛鳥歴史公園 概成4地区の概要

祝戸地区		石舞台地区	
面積 7.4ha	事業承認 S46.12.23	面積 4.5ha	事業承認 S46.12.23
都市計画決定 S46.7.30	供用開始 S49.7.22 (告示は S51.8.30)	都市計画決定 S46.7.30	供用開始 S51.8.30
<p>飛鳥古京や棚田を一望できる展望台のほか宿泊研修施設を設置。</p>  <p>西展望台 東展望台 宿泊研修施設「祝戸荘」</p>		<p>蘇我馬子の墓と伝えられる石舞台古墳を中心に、周囲の棚田地形を活かした芝生広場などを整備。</p>  <p>多目的休憩所「あすか風舞台」 石舞台古墳 芝生広場</p>	
甘樫丘地区		高松塚周辺地区	
面積 25.1ha	事業承認 S49.3.28	面積 9.1ha	事業承認 S52.3.28
都市計画決定 S49.1.18	供用開始 S55.4.1	都市計画決定 S51.10.22	供用開始 S60.10.23
<p>蘇我蝦夷・入鹿の邸宅があったとされる甘樫丘に飛鳥古京・大和三山が望める展望広場や散策路を整備。</p>  <p>甘樫丘展望台 万葉の植物園路 川原展望台</p>		<p>高松塚古墳の周辺を整備。インフォメーションセンターである公園館を設置。</p>  <p>国営飛鳥歴史公園館 中尾山古墳 高松塚古墳 高松塚壁画館</p>	

(2) キトラ古墳周辺地区の位置づけ

昭和 58 年に壁画が発見されたキトラ古墳は、その後の調査により現存する東アジア最古の天文図や四神全ての精緻な壁画が確認されるなど学術上極めて価値の高い文化財として平成 12 年 11 月 24 日に特別史跡に指定された、高松塚古墳に匹敵する飛鳥の枢要な文化財である。

本遺跡をその周辺の自然環境や田園環境とあわせて一体的に保全するとともに、広く国民が利用できる空間として整備する必要があるため、平成 13 年 3 月 16 日に閣議決定「飛鳥地方における歴史的風土及び文化財の保存等に関する方策の一環としての都市公園の整備について」が行われ、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区を国営飛鳥歴史公園の一部として明日香村大字桧前、大根田、阿部山の各地内に約 14ha の面積で整備するものである。

第2節 キトラ古墳周辺地区整備の基本方針

(P. 5～8は、キトラ古墳周辺地区基本計画より、抜粋・要約)

(1) 整備の背景と目的

国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の整備については、古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法の趣旨、歴史的風土審議会における建議、及び国営飛鳥歴史公園設置の整備方針（建設大臣決定）をもとに、関連する諸事業の進捗や、周辺区域や関係自治体の意向も踏まえ整備することとし、キトラ古墳周辺地区基本計画において、以下のとおり、目的とテーマを定めている。

国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区整備の目的

- 歴史的風土及び史跡周辺の環境保全の場づくり
- 歴史的風土及び史跡の活用による体験学習の場づくり
- 歴史的風土の創造的維持保全活用の強化
- 地域活性化と東アジア圏との参加交流の拠点づくり
- 高次サービス機能の強化

国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区整備テーマ

キトラ古墳の保全と活用、および檜隈寺跡などの周辺の歴史遺産を生かし、東アジアにおける交流で培われた歴史が訴える古代の時空間と生活文化の、歴史と共に育まれた風土における体験・学習、あわせて交流を通じた地域の活性化に資する公園づくり

(2) 整備の基本方針

1) 基本方針と展開方向

国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区は、国営飛鳥歴史公園に求められる多様な役割の中でも歴史的風土及び史跡の活用による体験学習の機能が主要な機能と位置付けられることから、以下の4点を基本方針としている。

■キトラ古墳および檜隈寺跡の保全整備計画と連携し、人々に感動を与える史跡周辺の環境整備を図る

- ・史跡周辺の環境保全
- ・史跡周辺の環境創出

■キトラ古墳および檜隈寺跡の解説を通じ、飛鳥の歴史に関する情報発信・学習機能の提供を図る

- ・史跡にまつわる展示・解説の実施
- ・史跡を通じて遊びながら楽しく学べる体験的歴史学習の場の提供

■飛鳥の歴史的風土を味わいながら、ゆったりと過ごせる公園空間の整備を図る

- ・自然・人文環境が一体となった歴史的風土の保存活用
- ・歴史的風土を活かした、散策・休養・眺望の場の整備

■質の高い利便性・サービスの提供及び新しい維持管理手法の導入を図る

- ・来園者の利便性の確保
- ・来園者と地元の方々への参加による管理運営やリサイクル等、新しい公園維持管理手法に対応した管理施設の整備

2) 導入機能

国営飛鳥歴史公園整備方針、前掲の基本方針を踏まえ、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区に求められる機能を、「史跡や風土を活用した体験学習及び情報提供機能」を基本とし、以下のように設定している。

①キトラ古墳および檜隈寺跡周辺の環境保全・修景機能
キトラ古墳及び檜隈寺跡を包蔵する周辺の環境を一体的に保全する。また、キトラ古墳周辺の修景整備を行い、鑑賞の場の整備を図る。

②体験的歴史学習機能
飛鳥時代にさまざまな影響を与えた東アジアとの交流に関する情報収集・発信を行いながら、史跡および歴史的風土を誰もが楽しく学ぶことができる体験学習の場の創出と歴史的風土を構成する田園風景を鑑賞対象として捉えた展示を行う。

③歴史的風土(農地、森林)の保全・創出機能
自然と人文環境が一体となった田園環境の保全を図るとともに、歴史的風土を構成する飛鳥らしい田園環境の質の向上や環境の保全を図る。また、歴史的風土の中での自然とのふれあい、休息、展望、散策等が楽しめる空間を創出する。

④飛鳥西南部における情報拠点機能
飛鳥地方に点在し、公園と地域が一体となっている国営飛鳥歴史公園の特徴を踏まえ、来園者の利便性確保のための情報提供や交通サービス施設の整備を図る。

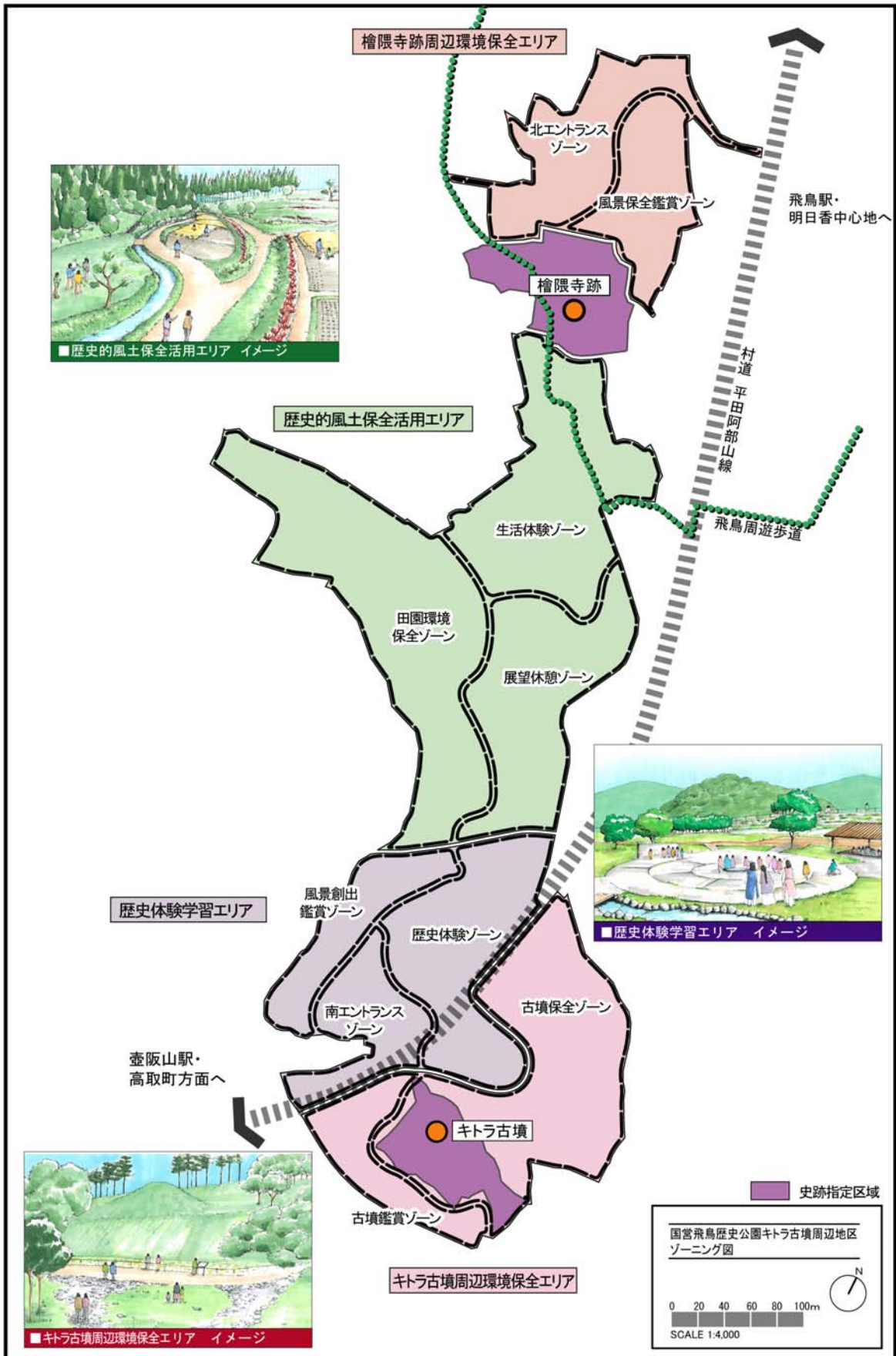
⑤参加と交流を目指した新しい公園管理機能
来園者や地域住民が公園管理に携わり、歴史的風土の保存への理解と参加者同士の交流の場となる拠点施設の整備を図る。

3) ゾーニング

キトラ古墳および檜隈寺跡周辺の環境保全、体験的歴史学習の場の整備、歴史的風土の保存など、空間利用の観点から4つのエリアに分け、各エリアにおいて以下のようにゾーンを設定する。

エリア	ゾーン	空間特性と資源等
キトラ古墳周辺環境 保全エリア	古墳保全ゾーン	キトラ古墳を含む丘陵部一帯
	古墳鑑賞ゾーン	周囲の景観から遮断されたキトラ古墳を見上げる盆地地形
檜隈寺跡周辺環境 保全エリア	風景保全鑑賞ゾーン	檜隈寺跡の前景となる平田阿部山線沿いの棚田空間と高松塚古墳の眺め
	北エントランスゾーン	飛鳥周遊歩道と連続するキトラ古墳周辺地区の北端部で、平田阿部山線から景観的に遮断されている平地
歴史体験学習エリア	歴史体験ゾーン	整備に際して地形の改変を最小限に抑えることができるキトラ古墳近傍部
	南エントランスゾーン	キトラ古墳周辺地区の南端部で、平田阿部山線と隣接する平地
	風景創出鑑賞ゾーン	段状の地形とキトラ古墳を含む丘陵の眺め
歴史的風土保全活用 エリア	田園環境保全ゾーン	谷筋に沿って続く棚田地形と樹林地
	展望休憩ゾーン	キトラ古墳周辺地区の中央部に位置し、近傍の集落と金剛葛城山系の山並みが展望できる尾根部分
	生活体験ゾーン	檜隈寺跡と連続する舌状台地と谷筋に沿って続く棚田地形

国営飛鳥歴史公園 キトラ古墳周辺地区 ゾーニング図



(3) キトラ古墳周辺地区に係る経緯

国営飛鳥歴史公園 キトラ古墳周辺地区に係る経緯

年月	事柄
昭和45年12月	・「飛鳥地方における歴史的風土及び文化財の保存等に関する方策について」閣議決定
昭和55年 5月	・「明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法」公布施行
昭和58年11月	・キトラ古墳調査。墳丘外からの探査により壁画(玄武)を確認。
平成 6年 4月	・国営飛鳥歴史公園46. 1ha 概成開園 (祝戸地区7.4ha、石舞台地区4.5ha、甘樫丘地区25.1ha、高松塚周辺地区9.1ha)
平成12年 7月	・キトラ古墳史跡指定
平成12年11月	・キトラ古墳特別史跡指定
平成13年 3月	・キトラ古墳周辺地区を国営飛鳥歴史公園の一部として整備する閣議決定
平成13年12月	・飛鳥公園(キトラ古墳周辺地区の追加)約60. 7ha都市計画変更の告示
平成15年 3月	・檜隈寺跡史跡指定
平成15年 8月	・特別史跡キトラ古墳仮設保護覆屋竣工
平成16年 9月	・キトラ古墳壁画を全面剥ぎ取ることが方針として決定
平成18年 3月	・国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区基本計画の策定
平成18年 5月	・飛鳥資料館にて「白虎」を特別公開(以降毎年5月に特別公開を実施)
平成18年 8月	・飛鳥公園(キトラ古墳周辺地区の区域変更)約61. 4ha都市計画変更の告示
平成18年10月	・都市計画公園飛鳥公園の事業区域(キトラ古墳周辺地区の区域追加)変更の告示

第2章 体験的歴史学習の基本理念

第1節 体験的歴史学習とは

(1) 体験的歴史学習とは

キトラ古墳周辺地区の整備方針を受け、本地区では飛鳥の歴史や文化、風土について遊びながら楽しく学べる「体験的歴史学習」を展開する。

【キトラ古墳周辺地区で行う体験的歴史学習の定義】

「体験的歴史学習」とは、五感を使って楽しみながら飛鳥の歴史（古代～現代）や文化、風土について学ぶ、キトラ古墳周辺地区で行う普及・啓発活動の総称とする。

(2) 背景・条件

キトラ古墳周辺地区で体験的歴史学習を行う背景・条件を以下にまとめる。

1) 近年の飛鳥地方の歴史的風土及び文化財の保存活用にかかる動向

① 飛鳥の歴史的風土及び文化財保存の必要性

- ・キトラ古墳壁画を保存管理する施設を公園内に設けることを基本としていくことが「古墳壁画の保存活用に関する検討会」（文化庁設置）において了解される。（平成 22 年 5 月）
- ・飛鳥西南部における終末期古墳（マルコ山古墳、真弓鐘子塚古墳、牽牛子塚古墳）や渡来系文化を伝える遺跡・出土物（檜隈寺跡、檜前遺跡群）の発見。
- ・「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界文化遺産暫定リスト追加。（平成 19 年 1 月）

② 「本物」の文化財への注目・関心の高まり

- ・キトラ古墳・高松塚古墳の壁画保存への全国的な注目の高まり。
- ・飛鳥地方の新たな遺跡等の発見と、遺跡見学等を目的とした来訪者の増加。

③ 新たな「体験」へのニーズの高まり

- ・全国の博物館等施設における学習手法が「見る」から「体験する」に変化するなかで、飛鳥地方でも体験ニーズに対応したイベントが増加。
- ・担い手となる村内の活動団体等の活性化。

2) 国営公園キトラ古墳周辺地区の特性

①多様な来訪者が訪れる国営公園

- ・幅広い層の来園者が多様な目的（風景鑑賞、歴史学習、レクリエーション等）で来園。
- ・開園から30年が経過し、飛鳥の歴史的風土を構成する公園として近年は来園者が増加傾向。（平成16年度：94万人、平成21年度：118万人）

②史跡と農景観が一体となって存在

- ・南に特別史跡キトラ古墳、北に史跡檜隈寺跡、檜前遺跡群の重要な遺跡に隣接。
- ・地区内に残る棚田や樹林地を保全。

③飛鳥中心部から離れた西南部に位置

- ・近年、終末期古墳や渡来系文化に関連した遺跡などの新たな考古学的発見が相次ぎ注目を集めている飛鳥西南部に位置。
- ・この地域は、多くの陵墓や極彩色の壁画を有する高松塚古墳・キトラ古墳などを含むエリアである。
- ・飛鳥駅や壺阪山駅に近く交通の利便性が高いが、周辺に拠点施設や駐車場等の便益施設が少ない。

3) 飛鳥地方の既存施設の現況

①飛鳥地方の北部および中心部に分布

- ・飛鳥地方には歴史学習・展示機能を担う施設があるものの、全て飛鳥北部エリアおよび飛鳥中心部エリアに位置。
- ・情報案内施設は、飛鳥中心部エリアに集中して分布。

②古代飛鳥についての学習内容が中心

- ・古代の飛鳥を中心とした歴史学習が多く、現代の明日香の風景や人々の暮らし、飛鳥の歴史的風土の保全等についての学習は少ない。
- ・古代飛鳥についての展示は、分野やテーマによってある程度棲み分けがなされている。
- ・歴史や考古学に興味のある人が主な対象。
- ・いくつかの施設でキトラ古墳についての展示を行っているが、現在のところ壁画等の写真と石室の原寸模型による展示が中心。

③歴史や考古学に興味のある人を対象とした「見る」展示手法が中心

- ・ガラスケースの中の出土資料や解説の書かれたパネルを「見る」展示が中心。
- ・体験型・参加型の学習活動はものづくり体験等のイベントのみ実施（常時実施はみられない）。
- ・映像展示機器等の更新、施設の老朽化が課題。

(3) 体験的歴史学習に求められる役割

前掲した背景・条件より、キトラ古墳周辺地区で行う体験的歴史学習に求められる役割を以下のように設定する。

キトラ古墳周辺地区で行う体験的歴史学習に求められる役割

- ①飛鳥地方の博物館等施設は飛鳥北部・中心部に集中しており、西南部には歴史学習の拠点となる施設がないことから、キトラ古墳周辺地区には飛鳥西南部の拠点としての役割が求められる。
- ②地区内に本物のキトラ古墳壁画が保存管理されること、檜隈寺跡、檜前遺跡群に隣接することから、これらについて学べると同時に、地区内に保全された農地・樹林地を生かした学習を行うことが求められる。
- ③周辺施設では「見る」展示手法が中心となっており、ハンズオン展示など体感的に理解できる歴史学習や、実際に体を動かしたり現地を赴いて学習する体験型の歴史学習を行っている施設は少ないことから、キトラ古墳周辺地区ではインタラクティブな展示・解説に加え、体験学習や史跡案内等のアクティビティの高い歴史学習を行うことが求められる。

第2節 体験的歴史学習の目的と展開方向

本地区で行う体験的歴史学習の目的と展開方向を以下のように設定する。

(1) 体験的歴史学習の目的

体験的歴史学習の目的

○歴史的風土や文化財の保存への理解の向上

来訪者に、それぞれの興味に応じた様々な手法、内容による体験的歴史学習を通じて、歴史的風土や文化財保存の重要性に対する理解を深めていただく。

○キトラ古墳周辺地区及び飛鳥地方の魅力向上

南に特別史跡キトラ古墳、北に史跡檜隈寺跡、檜前遺跡群などの資源を有しており、これらの活用によって地区自体を魅力あるものとすることで、飛鳥西南部への来訪を促し、飛鳥地方の総合的な魅力向上につなげる。

○参加と交流による地域活性化

多様な主体の参画による体験的歴史学習を通じて、今後、公園内にとどまらず飛鳥地方全体の保存・活用や各種活動に関わっていく人材を育成し、ひいては「人」を中心とした持続的な地域活性化につなげる。

(2) 体験的歴史学習の展開方向

体験的歴史学習の展開方向

①歴史学習におけるキトラ古墳周辺地区の位置づけ

体験学習館を核として、地区内や飛鳥西南部の古墳や遺跡、棚田等を周遊しながら、飛鳥の歴史や風土を学べる飛鳥西南部の拠点として位置づける。

②学習内容

キトラ古墳と檜隈寺跡、檜前遺跡群を中心とした飛鳥西南部の文化財等とその背景となる古代の生活文化や技術、ならびに飛鳥地方の歴史的風土に関する学習を行う。

③主たる機能

- 展示・解説機能・・・キトラ古墳・檜隈寺跡等に関するインタラクティブな展示・解説
- 体験学習機能・・・屋内・屋外空間の一体的に活用した学習
- 史跡案内機能・・・飛鳥西南部への案内

第3章 体験的歴史学習の展開方針

第1節 体験的歴史学習プログラムの展開

本地区で行う体験的歴史学習は、それぞれの学習分野ごとに、地域の活動団体等との連携等による多様な手法を組み合わせた「体験的歴史学習プログラム」として展開する。

(1) 体験的歴史学習のテーマとコンセプト

キトラ古墳周辺地区の整備テーマを受け、体験的歴史学習のテーマとコンセプトを以下のよう

体験的歴史学習のテーマ

○本物を体感する：『キトラ古墳にまみえる』

情報技術が発展し疑似体験的な展示が主流になるなか、キトラ古墳や周辺環境がもつ「本物」の意義を重視した展示を行う。

○時空を体感する：『飛鳥の刻(とき)を身にまとう』

来訪者の多くが求める飛鳥独特の歴史・文化への憧憬に応える、往時の雰囲気に入れることができる展示を行う。

○風土を体感する：『檜隈の田園環境と戯れる』

これまでの「学んで遊ぶ」から「遊ぶことによって学ぶ」体験学習の本来の意味を体感できる展示を行う。

○キトラ古墳周辺地区整備のテーマ

キトラ古墳の保存と活用、および檜隈寺跡などの周辺の歴史遺産を生かし、東アジアとの交流で培われた歴史が訴える古代の時空間、生活文化を歴史と共に育まれた風土の中で体験・学習・交流し、地域の活性化に資する公園づくり

キトラ古墳周辺地区の体験的歴史学習のテーマ

本物を体感する：『キトラ古墳にまみえる』

時空を体感する：『飛鳥の刻(とき)を身にまとう』

風土を体感する：『檜隈の田園環境と戯れる』

体験的歴史学習のコンセプト

「本物のチカラ」と「遊びのココロ」

キトラ古墳周辺地区における体験的歴史学習では、「本物のチカラ」と「遊びのココロ」が一体となって、学びの場や機会を創出する。



キトラの学び

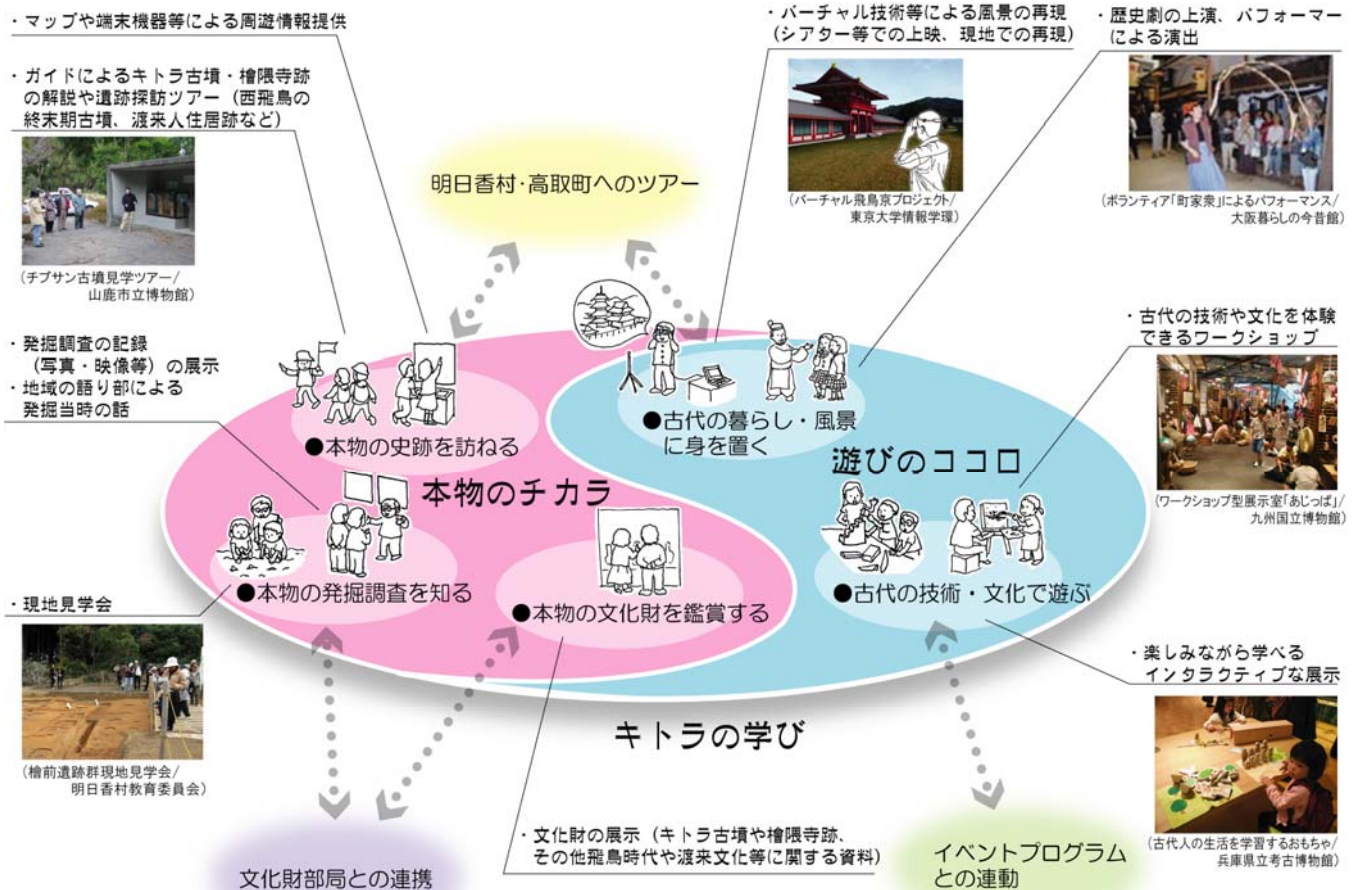
○本物のチカラ…本物の魅力を満喫する

キトラ古墳・檜隈寺跡に隣接する施設として、出土資料（文化財）や発掘調査などに関する展示を行い、来館者に「本物」の魅力を感じてもらおう。また、屋外や飛鳥西南部・高取地域の史跡も体験的歴史学習のサテライトと位置づけ、ガイドツアー等を通じて「本物」の史跡に触れる機会を提供する。

○遊びのココロ…遊びながら古代を体験する

多様な人々がレクリエーションに訪れる国営公園の特性を生かし、子どもから大人までが楽しめる遊びやエンターテインメントの要素が高い展示や体験学習を展開し、来館者が飛鳥の歴史や文化、風土に興味を持つきっかけをつくる。

■体験的歴史学習のコンセプトイメージ



(2) 体験的歴史学習プログラムの設定方針

体験的歴史学習のテーマ、コンセプトを受け、体験的歴史学習プログラムの設定方針を以下に定める。

体験的歴史学習プログラムの設定方針

○「本物」にふれるプログラムの実施

- ・文化財部局をはじめとする関係機関との連携により、「本物」にふれる体験的歴史学習を展開できるプログラムとする。
- ・実物を間近に感じられる展示、古代の人々の生活・文化を実体験できる体験学習、本物の遺跡を探訪できる史跡案内など多様な角度から「本物」にアプローチできるプログラムとする。

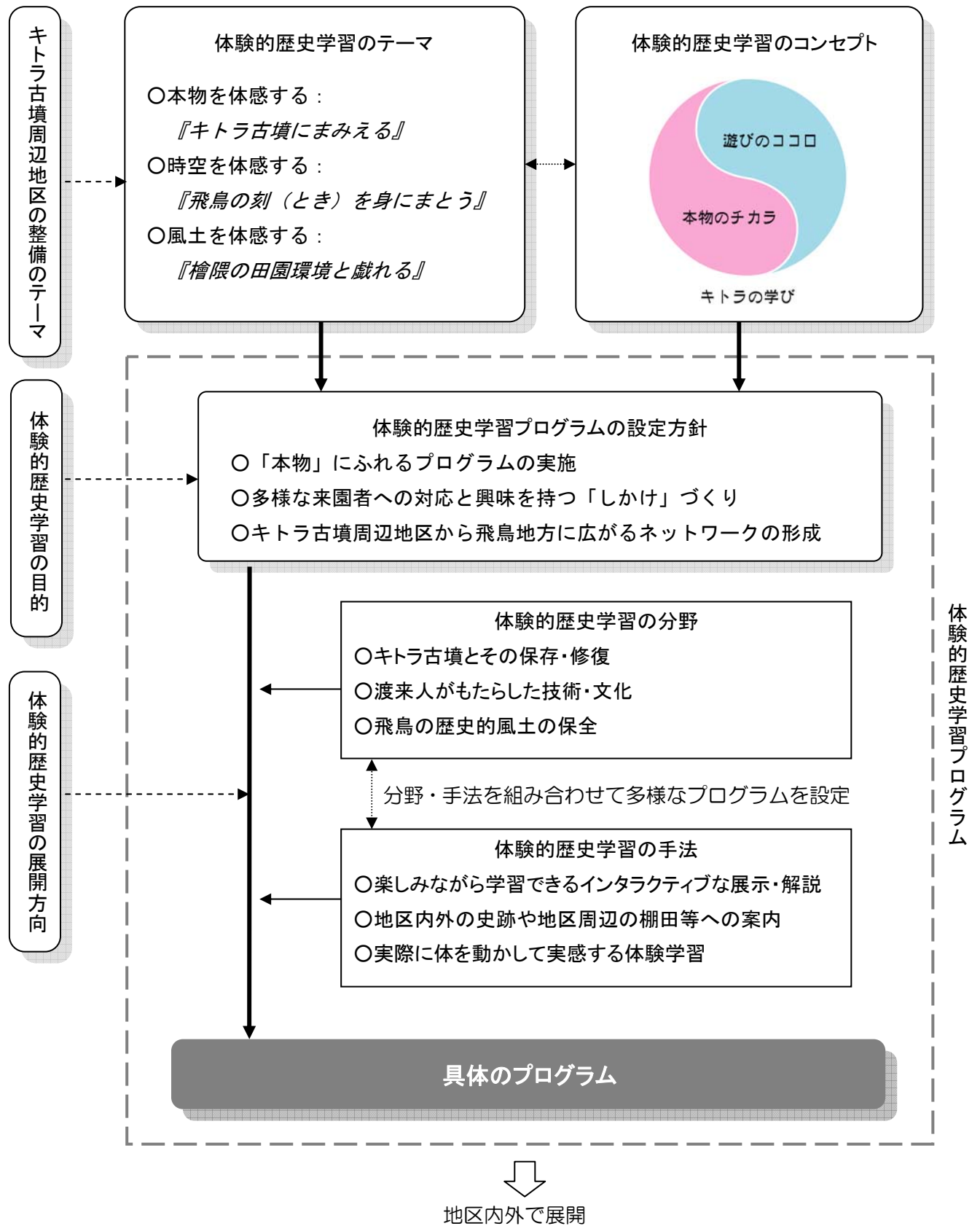
○多様な来園者への対応と興味を持つ「しかけ」づくり

- ・来園者の多様な興味・関心のレベルに応じた体験的歴史学習を提供することとする。小中学生やサークル等の団体利用に対応するとともに、ファミリー層や考古学ファン等も含め、年齢層やニーズに応じた多様なプログラムを設定する。
- ・展示・史跡案内・体験学習のそれぞれのメニューを有機的に連携させ、来園者が目的外の学習内容についても興味を持つ「しかけ」をつくる。

○キトラ古墳周辺地区から飛鳥地方に広がるネットワークの形成

- ・飛鳥地方の各種活動団体等との連携により、来園者が区内での体験的歴史学習を通じて飛鳥の歴史・自然・人に対してより興味・関心を持つプログラムを提供する。
- ・区内での体験的歴史学習が飛鳥地域の活動に発展するようなネットワークを形成する。

■体験的歴史学習プログラム設定のフロー



(3) 体験的歴史学習の分野・手法

1) 体験的歴史学習の分野

体験的歴史学習のテーマ、本地区の特性、既存施設の現況、さらに、キトラ古墳壁画を公園内で保存管理することを踏まえ、本地区では以下の三分野の体験的歴史学習を展開する。

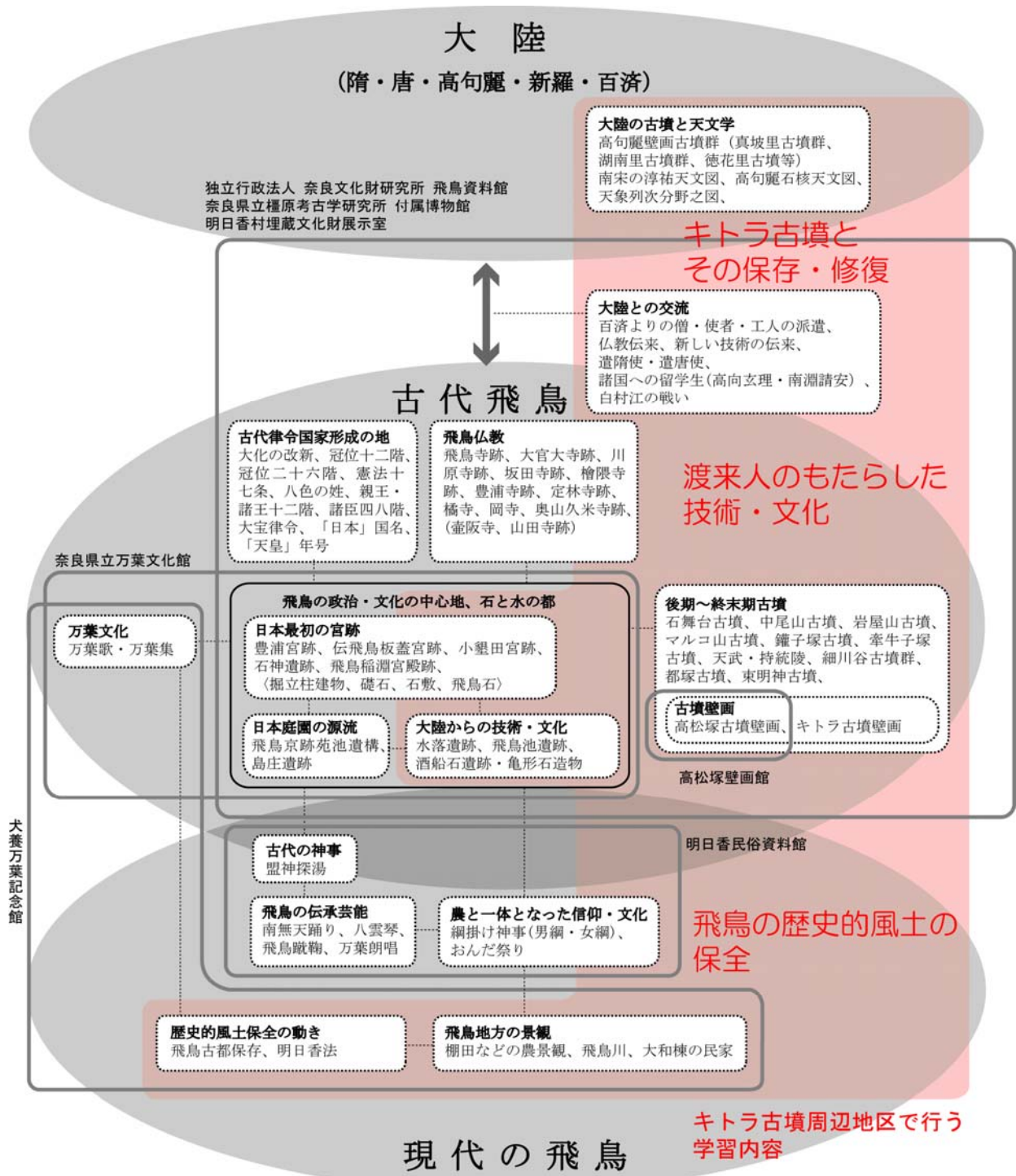
キトラ古墳周辺地区で展開する体験的歴史学習の分野

- キトラ古墳とその保存・修復
- 渡来人のもたらした技術・文化
- 飛鳥の歴史的風土の保全

■体験的歴史学習の分野と項目

体験的歴史学習分野①：キトラ古墳とその保存・修復	
キトラ古墳のなりたち	大陸文化の伝承／飛鳥の古墳とキトラ古墳／キトラ古墳の築造／キトラ古墳壁画天文図の特徴／ キトラ古墳壁画四神・十二支像の特徴／キトラ古墳の被葬者
古墳壁画の保存・修復技術	発掘調査／研究・分析／保存・修復
体験的歴史学習分野②：渡来人のもたらした技術・文化	
渡来人の足跡	渡来時期と起源／民族／渡来ルート／居住地／生活様式／都での役割／
渡来人のもたらした技術・文化	漢字文化／飛鳥仏教／道教的思想・文化／檜隈寺／建築・土木／ 池溝開発／経済・法律・暦／工芸／食品・薬／食事法・食事／馬文化／ 日本古来の技術・文化との融合
体験的歴史学習分野③：飛鳥の歴史的風土の保全	
飛鳥の魅力とは	飛鳥の風土の魅力／飛鳥保存をふりかえる
飛鳥の歴史的風土を守るために	飛鳥の歴史的風土を守るために／飛鳥の農林業を守る／飛鳥の風景・景観を守る／飛鳥の伝統文化を守る

■飛鳥地方の既存施設と学習分野の区分



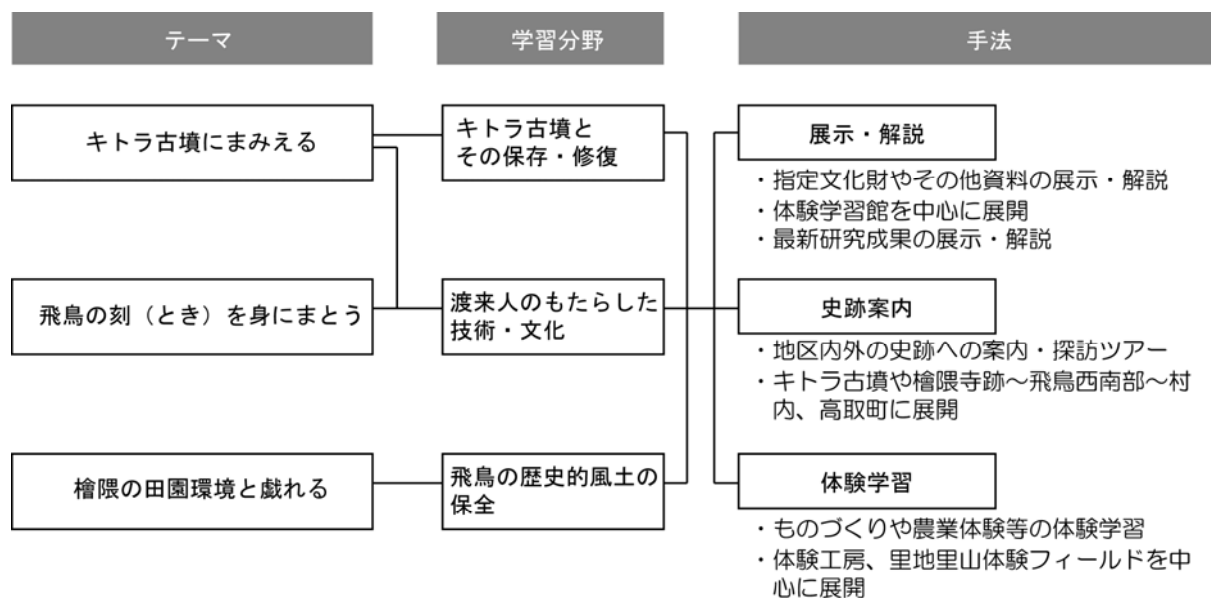
2) 体験的歴史学習の手法

本地区の体験的歴史学習は、文化財等を体感できる展示・解説、史跡探訪ツアー等の史跡案内、ものづくりや農林業体験等の体験学習など、多様な手法を用いて展開する。

体験的歴史学習の手法

- 楽しみながら学習できるインタラクティブな展示・解説（指定文化財やその他資料関連等）
- 地区内外の史跡や地区周辺の棚田等への案内（史跡探訪ツアーやスタンプラリー等）
- 実際に体を動かして実感する体験学習（ものづくり、農林業体験、古代生活体験等）

■体験的歴史学習のテーマ・学習分野・手法の関係



第2節 導入機能と機能配置

(1) 必要機能の整理

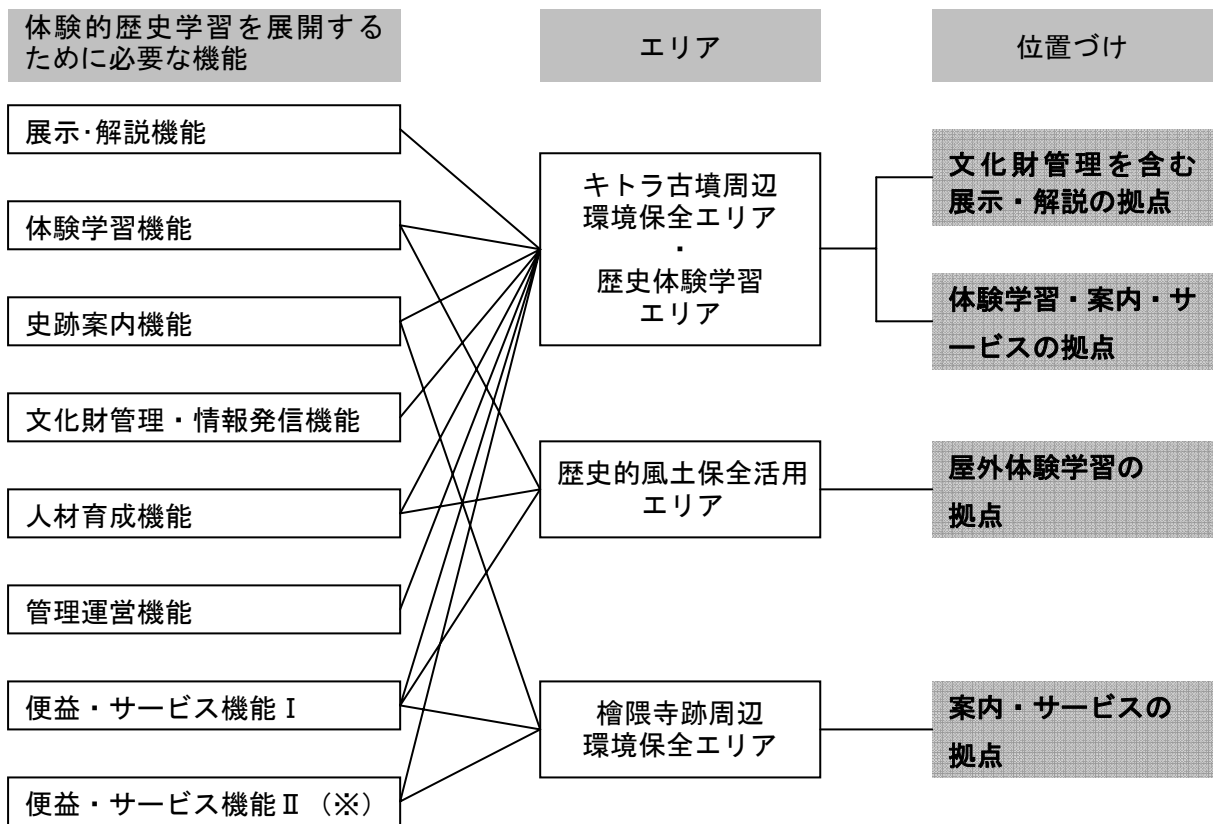
キトラ古墳周辺地区で体験的歴史学習を展開するために必要な機能として、展示・体験・案内機能、サポート機能、便益・サービス機能を導入する。

区分		機能
体験的歴史学習を展開するために必要な機能	(来園者が楽しく学ぶための機能) 展示・体験・案内機能	展示・解説機能 キトラ古墳・檜隈寺跡に隣接する学習拠点として、両史跡についての展示・解説を行う機能。出土資料や発掘調査記録等の展示のほか、石室体験など楽しみながら学習できるインタラクティブな展示を行う。
		体験学習機能 渡来人のもたらした技術や文化を実体験できる体験学習を行う機能。屋外空間と連携しながら、多様なターゲットやニーズに対応したプログラムを企画・実施する。
		史跡案内機能 飛鳥西南部における唯一の周遊拠点として、来園者を飛鳥西南部・高取地域に案内する機能。各種情報提供を行うとともに、ガイドによる史跡探訪ツアーなどを実施する。
	(展示・体験・案内機能を支える機能) サポート機能	文化財管理・情報発信機能 文化財を保存管理するとともに研究成果を蓄積・提供する機能。文化財部局との連携のもと、キトラ古墳や檜隈寺跡をはじめとする文化財に関する情報を蓄積し、必要に応じて内外に発信する。
		人材育成機能 古代飛鳥の歴史や飛鳥の歴史的風土について深く学びたい人を対象に研修を行うとともに、体験的歴史学習のための人材を育成する機能。文化財部局との連携のもと、講座の開催等を行う。
		管理運営機能 キトラ古墳周辺地区の管理拠点として、管理運営を行う機能。体験的歴史学習に携わるスタッフの事務等の拠点となる。
	(来園者が快適に過ごすための機能) 便益・サービス機能	便益・サービス機能Ⅰ 西飛鳥地域における唯一の周遊拠点として、来園者にアメニティを提供する機能。トイレや休憩スペースなどを開放する。
		便益・サービス機能Ⅱ (※) 西飛鳥地域の周遊観光拠点として、来園者に高度なサービスを提供する機能。売店での物販やレストラン・カフェ等での簡易な飲食サービスを展開する。

※施設面積とのかねあい等を見ながら導入規模を検討

(2) 機能と各エリアの対応

体験的歴史学習を展開するために必要な機能に対応する各エリアとその位置づけを設定する。



※施設面積とのかねあい等を見ながら
導入規模を検討

第3節 導入施設

(1) 主要施設の設定

1) 体験的歴史学習に係る施設の概要

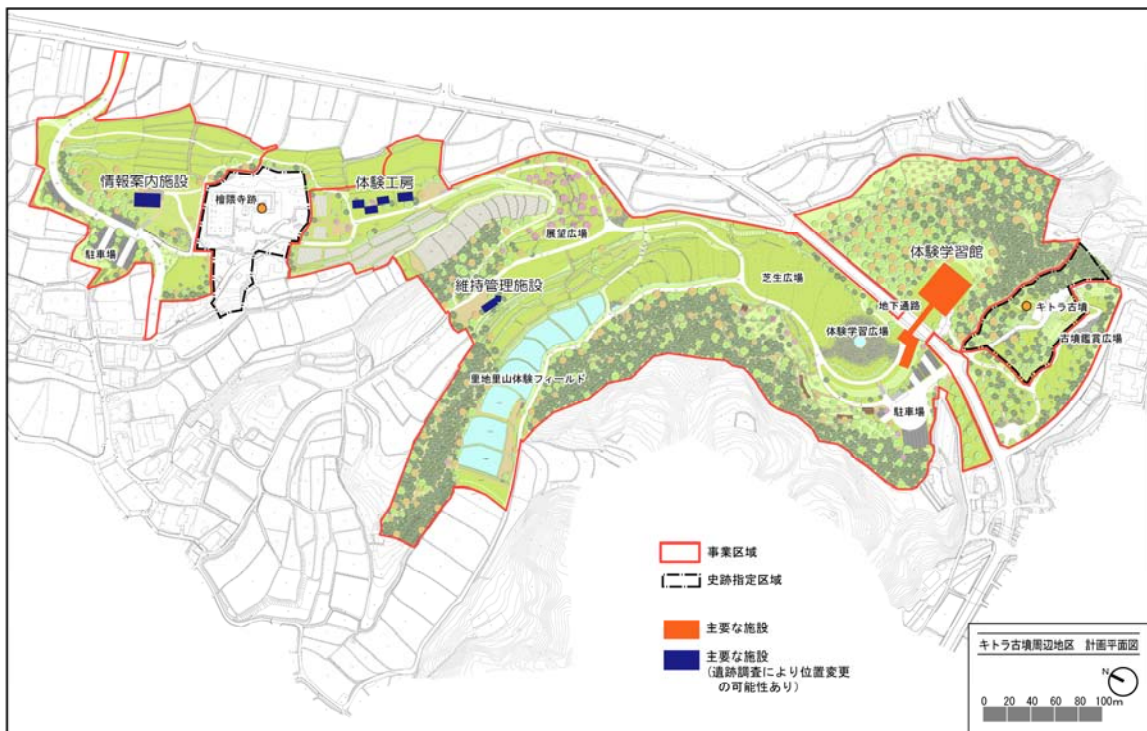
体験的歴史学習に係る施設（体験学習館、体験工房、維持管理施設、情報案内施設）の概要は以下のとおりである。

■地区内の体験的歴史学習に係る施設の概要

施設名	概要
体験学習館	キトラ古墳壁画の保存・管理施設であるとともに、キトラ古墳を中心に古天文学や古墳壁画などの古代飛鳥の技術や文化について、見て、聞いて、触れて学べる体験的歴史学習が可能な屋内展示施設とする。
体験工房	飛鳥時代の当地区周辺は、大陸の技術をもたらした渡来人の里があったとされる場所であることから、こうした歴史文化の継承をおこなうとともに、来園者が当時の飛鳥の文化や技術を学ぶことができる施設とする。来園者が実際に学ぶことのできる場とし、専門のインストラクターの指導による単位制の講座や教室を開催する。
維持管理施設	農地および樹林地の管理を地元の方々と協力しながら実施し、周辺の風景と調和した公園づくりを目指し、公園管理や展示解説等に関するボランティアの育成を行うとともに諸活動の拠点となる場所を提供するなどの支援を図る施設とする。
情報案内施設	飛鳥周遊の結節点としての情報提供サービスを行い、来園者の利便性を確保する施設とする。

※施設名は仮称とする

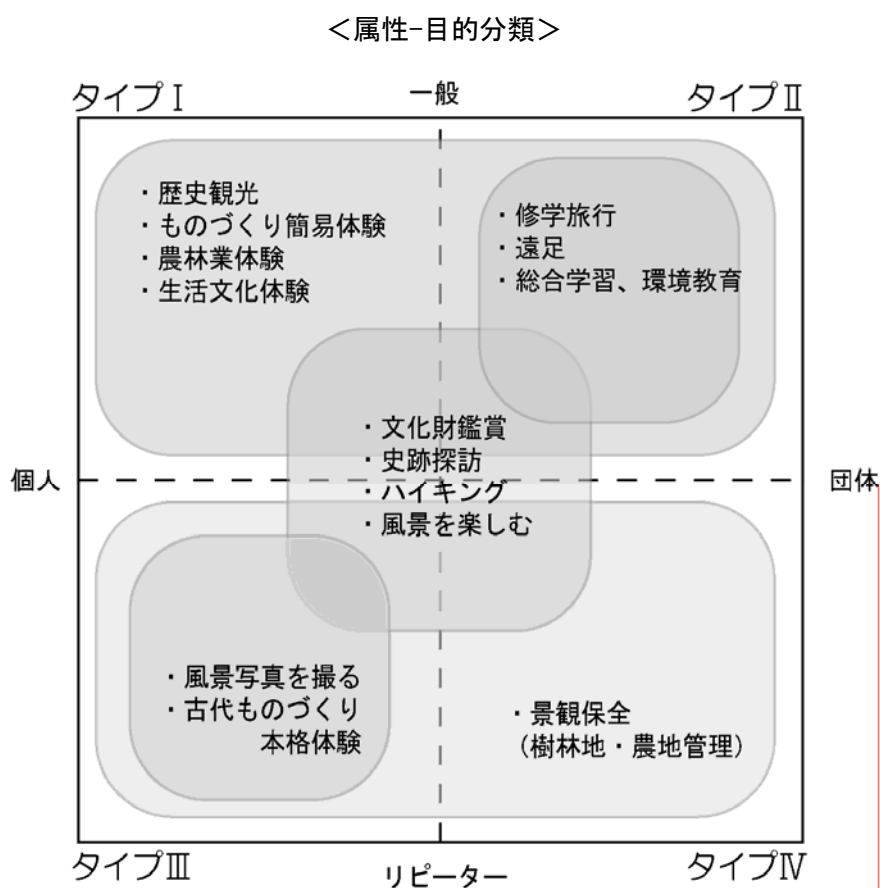
施設位置図



※遺跡調査により施設位置変更の可能性あり

2) 来訪者の想定

- ・キトラ古墳周辺地区における利用者数は30万人と想定されている。
- ・また、多様な属性の来訪者が想定されるため、今後、体験的歴史学習プログラムの具体的な内容を検討する際には「個人・団体」、「一般・リピーター」の軸で区分し、各属性の主目的の類型化を想定して行う。



※「個人」は家族、友人含む。「団体」は学校団体、趣味サークル等。

※専門家による研究、研修、発表会等は、別途対応するものとする。

3) 施設内容

- ・体験学習館は展示・解説、史跡案内、体験学習の中心的施設と位置づける。
- ・屋外体験学習の拠点として、体験工房、維持管理施設を配置し、案内・サービスの拠点として、情報案内施設を配置する。

施設	機能	内容	必要な施設
体験学習館 (本館) 延床面積 2,500～ 3,000㎡ 程度	展示・解説機能 【展覧区画】	・キトラ古墳・檜隈寺跡に関する展示・解説 ・明日香村内で出土した指定文化財の展示 ・飛鳥の歴史的風土に関する展示 ・古代飛鳥の技術や文化を学べるインタラクティブな展示	・展示室①（指定文化財展示室） ・展示室②、③（指定文化財以外の展示室） ・情報コーナー・図書室
	文化財管理・情報発信機能 【保存区画】	・文化財の保存管理 ・東アジアの文化財に関する情報の蓄積、および来館者等への提供	・収蔵庫（文化財・一般） ・燻蒸室、荷解室、サービスヤード、補修工作室等 ・学芸員室、資料室、保存科学室 ※文化財の保存管理に必要な内容について文化財部局と協議・調整
	人材育成機能	・研修や講座の開催を通じての来館者の学習支援と体験的歴史学習にかかる人材の育成	・研修室
	管理運営機能 【管理区画】	・地区の管理運営	・事務室 ・機械室その他 ・その他共用部分
	便益・サービス機能Ⅰ	・快適な施設利用のためのアメニティの提供	・トイレ、休憩コーナー
体験学習館 (別館) 延床面積 500㎡ 程度	体験学習機能	・古代飛鳥の技術や文化を楽しく学べる屋内体験学習の実施 ・雨天時の体験学習拠点としての活用	・体験学習室 ・スタッフ控え室
	史跡案内機能	・西飛鳥の史跡に関する情報提供 ・西飛鳥周遊ツアーの実施	・情報コーナー、案内カウンター、ツアー発着所 ・ガイド等の詰所
	便益・サービス機能Ⅰ	・快適な施設利用のためのアメニティの提供	・休憩コーナー
	便益・サービス機能Ⅱ ※	・飲食・物販等の高度なサービスの提供	・飲食施設（カフェ・レストラン） ・売店・ミュージアムショップ
体験工房	体験学習機能	・渡来人のもたらした技術や文化を楽しく学べるイベントプログラムの実施	・工房、倉庫
維持管理施設	便益・サービス機能Ⅰ	・快適な農作業のためのアメニティの提供	・休憩ロビー ・給湯室、トイレ、シャワー室
	体験学習機能	・飛鳥の風土を体験できるイベントプログラムの実施	・研修室 ・資料室
	人材育成機能	・農林業・景観保全に携わるボランティア人材の育成	
情報案内施設	史跡案内機能	・地区内施設等に関する情報案内 ・檜隈寺跡に関する情報提供、解説	・休憩ロビー ・案内カウンター・情報コーナー ・トイレ
	便益・サービス機能Ⅰ	・快適な施設利用のためのアメニティの提供	
	便益・サービス機能Ⅱ ※	・物販等の高度なサービスの提供	・特産物コーナー

※施設面積とのかねあい等をみながら導入規模を検討

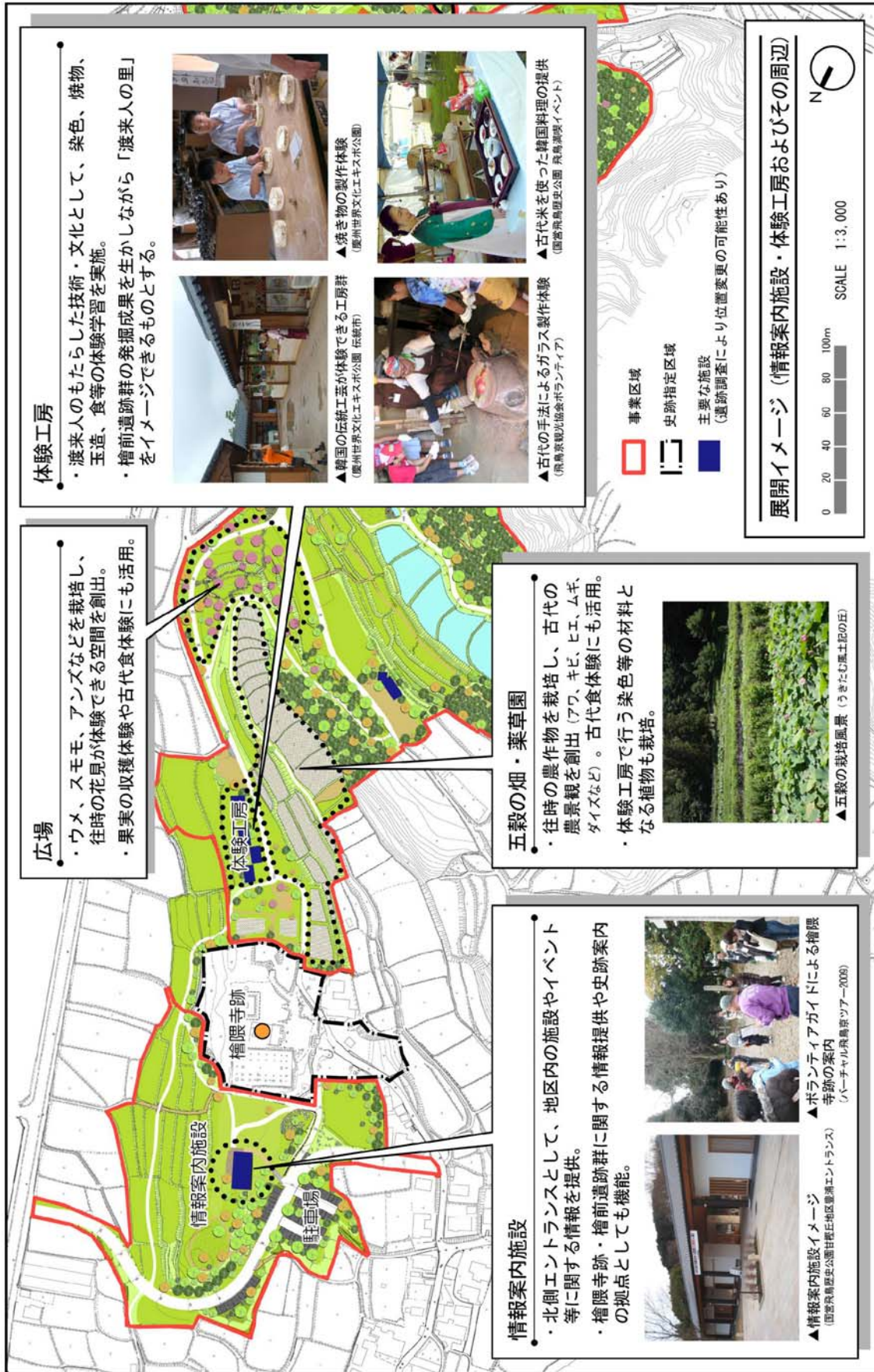
(2) 体験的歴史学習プログラムの展開イメージ

1) 施設別展開イメージ

① 体験学習館およびその周辺



②情報案内施設・体験工房およびその周辺



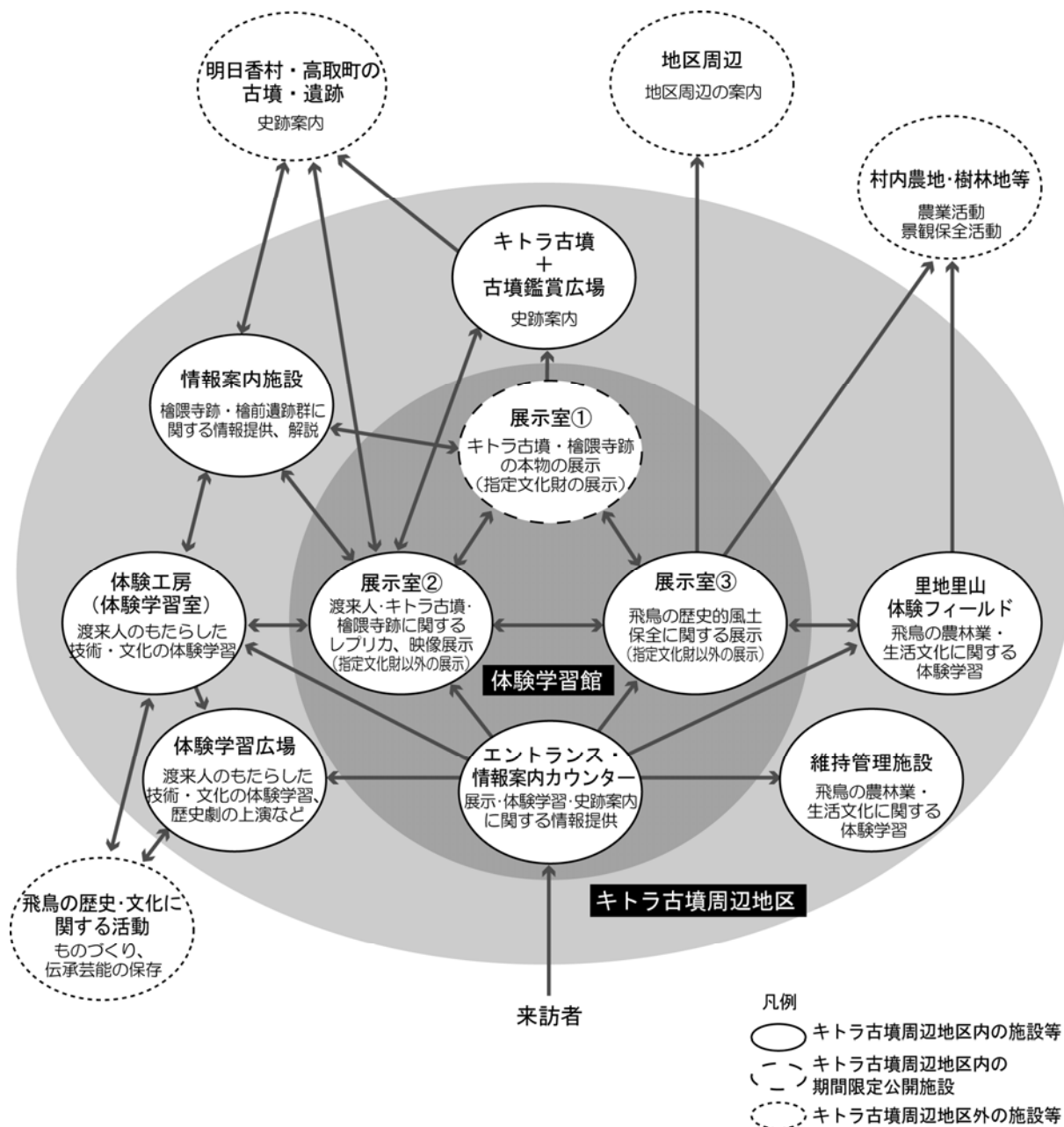
③維持管理施設およびその周辺



2) 地区内外への展開

体験的歴史学習プログラムは体験学習館を中心に実施することとし、キトラ古墳周辺地区だけでなく、地区外の明日香村や高取町へ展開するものとする。

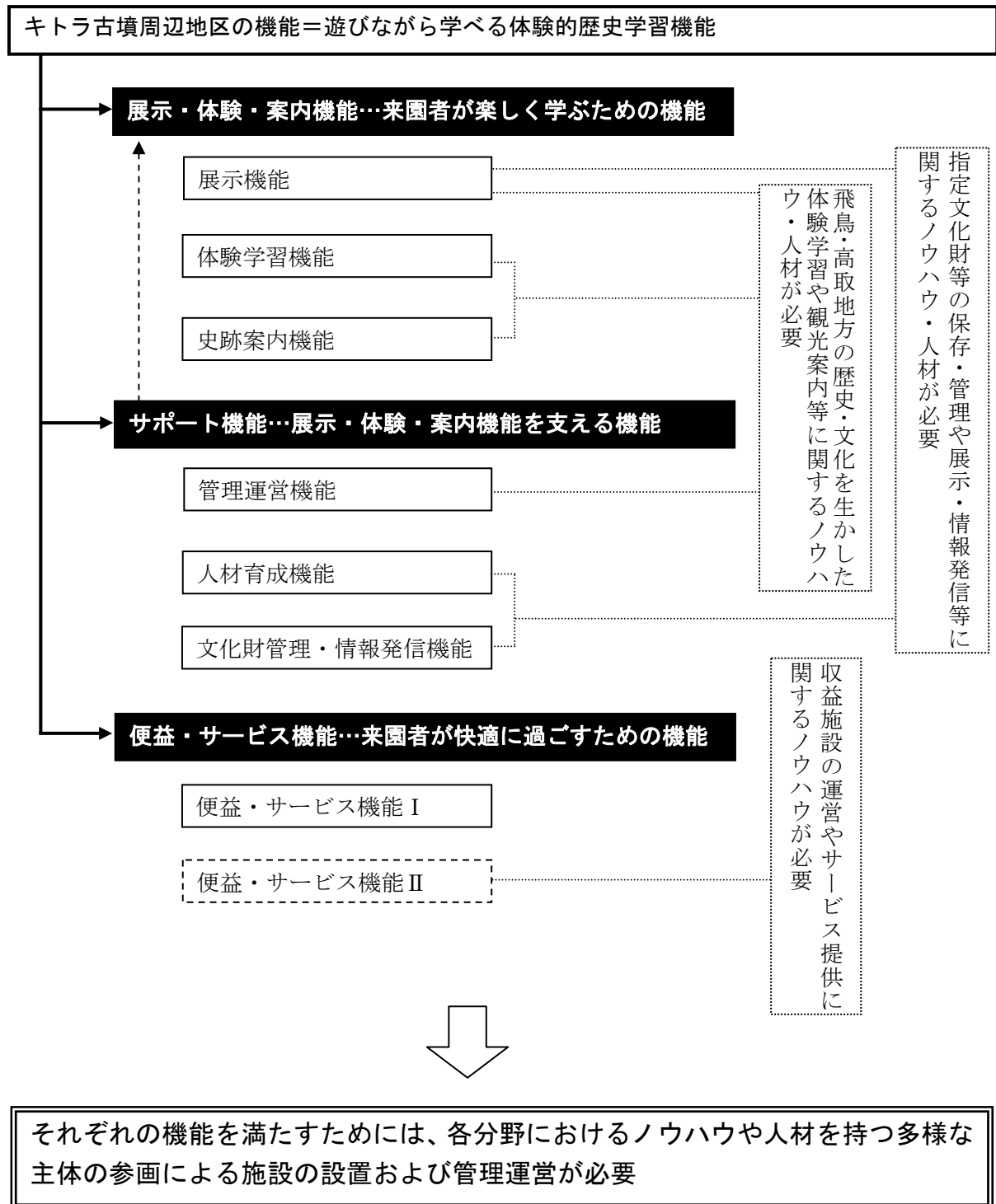
■地区内外に展開するプログラムのイメージ図



第4節 管理運営方針

(1) 管理運営に求められる要素

キトラ古墳周辺地区における体験的歴史学習に係る管理運営は公園管理者を主体に実施するものとするが、各機能を満たすためには、各分野におけるノウハウや人材を持つ多様な行政機関や活動団体等の参画による施設の設置および管理運営が必要となる。



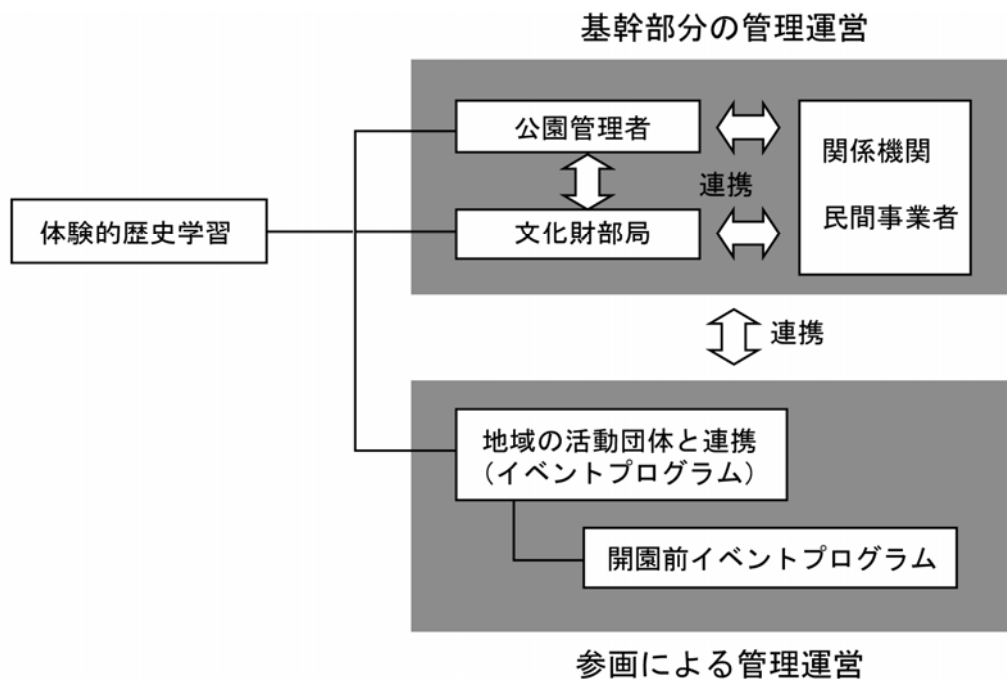
(2) 管理運営方針

体験的歴史学習の管理運営方針を以下に設定する。

体験的歴史学習の管理運営方針

- ・体験的歴史学習の管理・運営は、公園管理者を主体に実施するものとするが、各分野におけるノウハウや人材を持つ多様な主体の参画と連携により実施することを基本とする。
- ・体験的歴史学習の管理・運営は、管理運営の基幹を担う管理運営（文化財等の保存管理、展示や常設プログラム、一部のイベント等）と、参画による管理運営（イベントプログラム）の二つに分けて行う。
- ・基幹部分の管理運営は、文化財の保存管理や来園者への質の高いサービスの提供を図るため、公園管理者と文化財部局等関係機関や民間事業者が連携して行う。
- ・参画による管理運営は、飛鳥を愛する人々との交流による魅力的な体験的歴史学習を実現するために、地域の活動団体やリピーターと連携した「イベントプログラム」として行う。

■体験的歴史学習に係る管理運営の枠組み



(3) 基幹部分の管理運営の考え方

基幹部分の管理運営については、従来の公園管理とは異なる高い専門性やノウハウが求められる部分が多くある。基幹部分の管理運営のうち特に関係機関との連携が必要な項目について、以下に考え方を示す。

○文化財の保存管理および展示

- ・キトラ古墳壁画の保存管理は、文化庁等が主体となって管理運営を実施する。
- ・出土資料の展示等についても明日香村教育委員会を含めた文化財部局との連携が必要。

○体験的歴史学習に係る人材育成

- ・飛鳥の文化財保存にかかる人材は、独立行政法人奈良文化財研究所や明日香村教育委員会等との連携が必要。
- ・体験的歴史学習をコーディネートする人材育成については、上記機関に加え、(財)飛鳥保存財団等との連携も考えられる。

○便益・サービスの提供

- ・飲食・物販等の高度なサービスについては、民間事業者への管理許可等が考えられる。

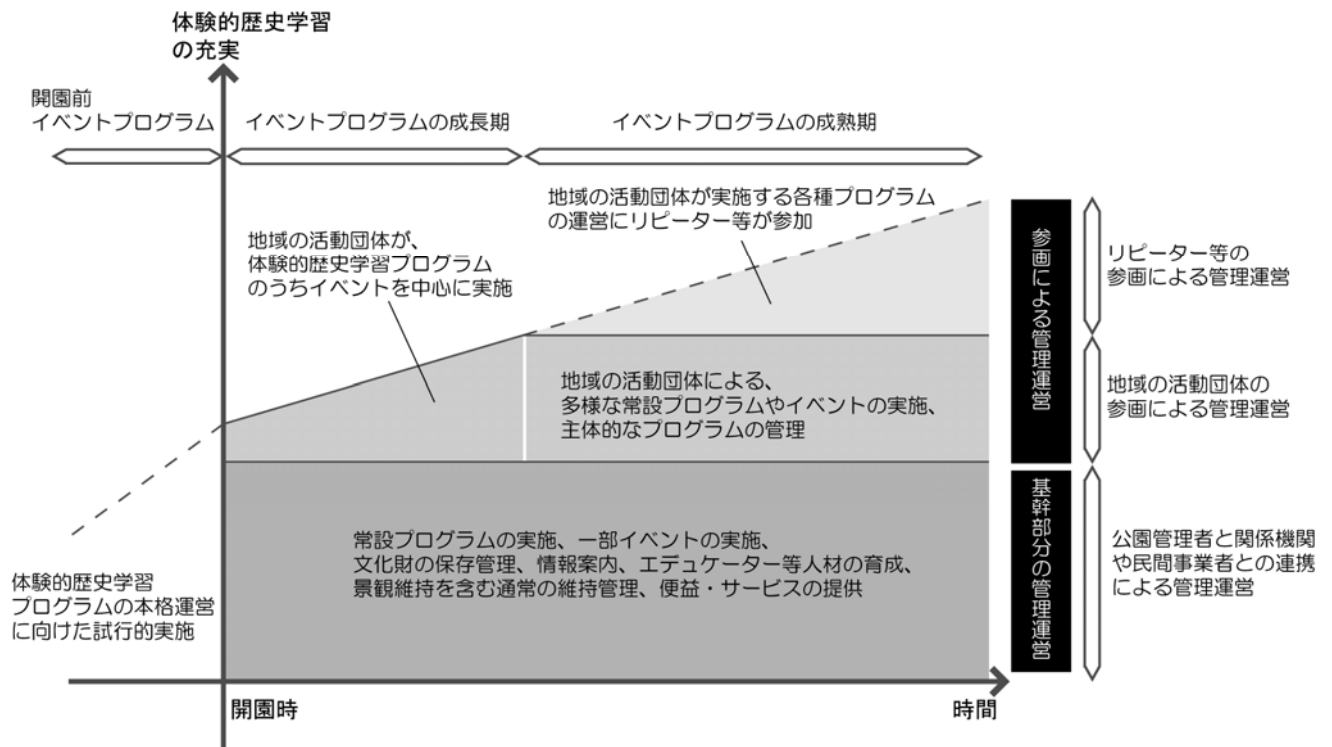
なお、来園者へのサービス向上を図るためには、施設の全てあるいは一部を民間の事業者が運営する手法も考えられる。

(4) 参画による管理運営の考え方

1) イベントプログラムの段階イメージ

- ・ イベントプログラムは、地域の活動団体、さらにはリピーターと連携して実施するものである。
- ・ 開園前から、地区の景観維持、事業周知、地域との連携を目的にイベントプログラムを実施し、試行を重ねながら開園後のイベントプログラムのメニュー開発や運営手法の検討を行い、本格運営に向けた技術の向上や組織づくりを図る。
- ・ 開園後は、地域の活動団体等と連携した飛鳥ならではのイベントプログラムを実施し、魅力的な体験的歴史学習を提供するとともに、地域と来園者の交流を図り、リピーターの増加や体験的歴史学習に係る人材の育成につなげる。
- ・ 将来的には、地域の活動団体やリピーターが体験的歴史学習の管理運営の一翼を担うことが期待される。

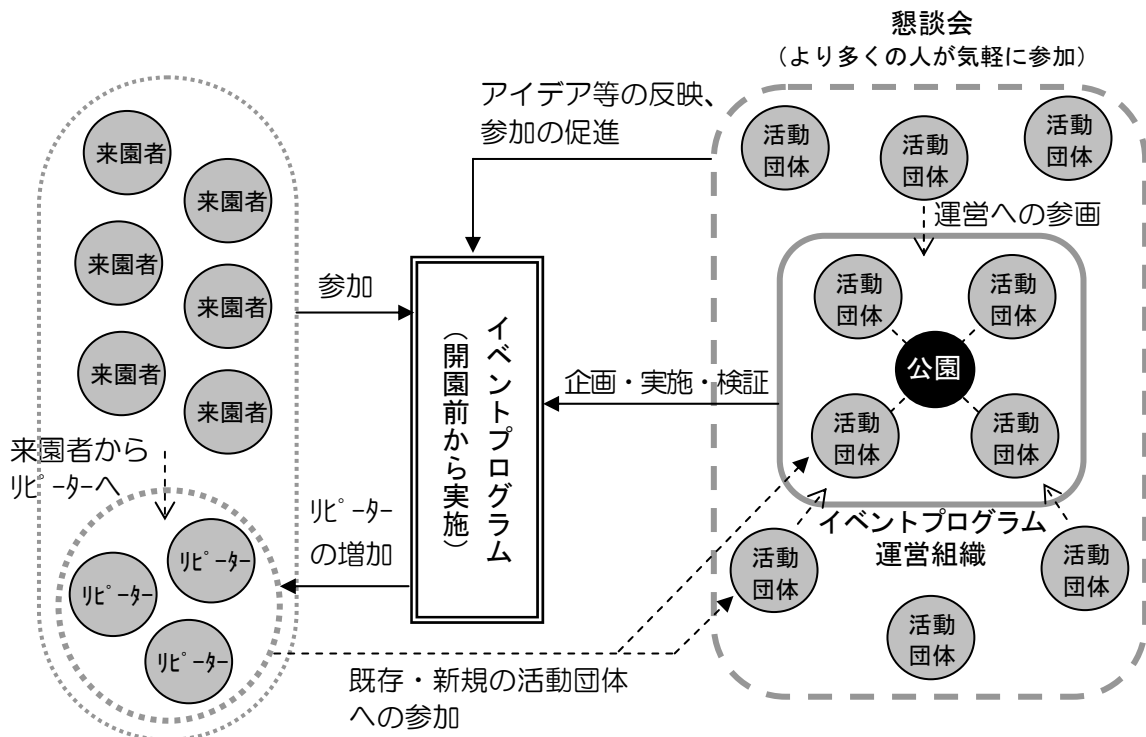
■段階的な管理運営内容のイメージ



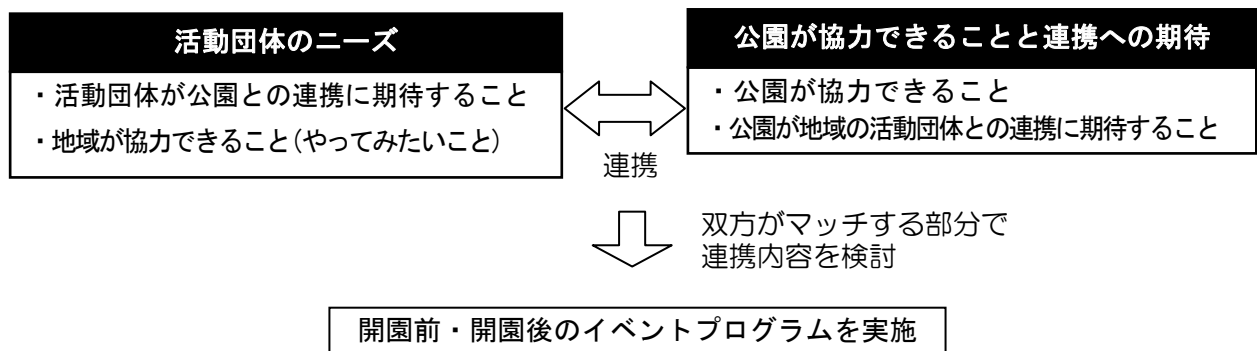
2) イベントプログラムにおける連携イメージ

- ・開園後の本格運営に向けて、運営組織を立ち上げ、イベントプログラムのメニューや実施体制を検討することとする。さらに、運営組織による活動と並行して懇談会を定期的開催し、アイデア・意見を広く求めることとする。
- ・イベントプログラムでは、公園と地域の活動団体がそれぞれの活動内容を生かしながら実施できるよう、活動団体のニーズを受け、公園側でできることや期待することに応じてイベントプログラムのメニューを検討していくこととする。

■運営組織イメージ



■イベントプログラムのメニュー検討イメージ



第4章 今後の展開に向けて

キトラ古墳周辺地区の体験的歴史学習を展開するにあたって、解決すべき課題を以下に列挙する。

計画・設計段階における課題

体験的歴史学習の内容に係る具体的検討

- ・各学習分野における目玉となる学習内容・手法の検討
- ・壁画や渡来人に係る研究成果の精査と展示・解説への具体的活用の検討
- ・高松塚古墳壁画を含む東アジアの壁画や天文図の比較展示の検討
- ・多様な来園者が興味・関心を持つような分かりやすい展示・解説の検討
- ・ハンズオンやバーチャルリアリティ等を用いた効果的な展示手法の検討
- ・来園者が目的外の学習内容についても関心を持つような仕掛けの検討
- ・園内他地区をはじめとする飛鳥地方全体に関する情報提供の検討
- ・地区内外の機能を有機的に連動させるプログラムの検討と関係機関との連携

施設の設置・管理運営の検討

- ・キトラ古墳壁画の保存管理に適した施設計画の検討（体験学習館）
- ・檜隈寺跡・檜前遺跡の発掘成果を生かした施設計画の検討（体験工房・維持管理施設・情報案内施設）
- ・発掘調査の状況等を踏まえた施設配置および動線の計画・設計
- ・具体的な建築規模、導入機能の検討
- ・ニーズの変化に対応できる施設整備や管理運営組織の検討

文化財保存・活用のための関係行政機関との連携体制の検討

- ・古墳壁画の保存管理に向けた文化庁等との役割分担
- ・文化財関係機関と連携した管理運営の枠組み検討

地域の活動団体等と連携したイベントプログラムの運営方策の検討

- ・開園前イベントプログラムの試行と課題の抽出
- ・プログラムと運営組織の具体の検討
- ・各種知識を持つ人材育成に寄与するプログラム内容とスケジュールの検討
- ・地区内の水田・田畑等の活用方策および収穫物の活用方策の検討

体験的歴史学習にかかる事業手法の検討

- ・体験的歴史学習にかかる事業の枠組みの検討
- ・施設の料金徴収についての検討
- ・多様な主体の参画による事業運営を行うための役割分担の検討

開園後も継続的に取り組むべき課題

情報更新・効果検証

- ・壁画や天文図、渡来人に係る研究成果の精査と展示・解説への具体的活用の検討
- ・学習内容、手法等に関する効果検証と結果の反映

ニーズへの対応

- ・来園者、活動団体に対するニーズ調査
- ・ニーズの変化に対応した管理運営の充実

地域の活動団体等と連携したイベントプログラムの運営

- ・多様な主体の参画を可能とする運営
- ・イベントプログラムの実施と検証、プログラムの再構築による魅力向上

